

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4473000349
法人名	社会福祉法人 直心会
事業所名	望箭荘グループホーム山国
訪問調査日	平成20年 3月10日
評価確定日	平成20年 7月17日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4473000349
法人名	社会福祉法人 直心会
事業所名	望川筋荘グループホーム山国
所在地	大分県中津市山国町守実57-1 (電話)0979-62-2670

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成20年3月10日
評価確定日	平成20年7月17日

【情報提供票より】(平成20年2月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	4人, 非常勤 3人, 常勤換算 2.04

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,600 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.3歳	最低	80歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊谷循環器科内科医院 水谷外科 梶原病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 山国川の河畔に建てられた大きな建物の2階部分がグループホームとなっている。それに隣接して町の社会福祉センターがあり、町の人が用事のついでに寄ってくれる場所となっている。
2. 明るく清潔なホールで、利用者はレクリエーションを楽しんだり、畳敷きの陽当たりのいい場所で昼寝をしたりして、思い思いに過ごしている。
3. 調理を主に担当する職員がおいしい食事をつくり、手早く配膳して温かい物が供されている。下ごしらえは利用者に参加して楽しんでやっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査での改善課題は、全職員で取り組みを行い、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義を職員に話し、よく理解させたうえで自己評価票をコピーして全職員に配り、記入されたものを主任が集約して自己評価票を作り上げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業や運営に関する説明、グループホームでの行事などの相談を行い、自由に意見交換をしてサービスの向上につなげている。利用者や家族、市の職員、民生委員、看護師など参加メンバーは多く、会議録も書かれている。運営推進会議のスタートは遅れたものの、今後の取り組みに期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や苦情は、ケアの振り返りのための重要な指摘と考えて対処することが望まれる。そのためにも専用のファイルを作り、情報を蓄積して原因の考察や予防などに取り組むことを望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自体が過疎化しており、地域との関わりが難しい面があるが意識して努力をしている。福祉体験として中学生の研修を受け入れたり、中津市の山国出身者に慰問に来てもらったりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念は存在するが、地域密着型サービスとしてどう取り組んでいくかの内容が含まれていない。	○	地域の中でのグループホームの役割を全職員で話し合い、理念に盛り込むことを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日の朝礼時や職員会議において理念を確認し、それに沿ったケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふるさと祭りやバザー、お接待など、地域の行事には積極的に参加している。また、地元中学生の福祉体験授業の受け入れや、山国出身の中津市民の慰問などの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、昨年の評価結果についての改善を行っている。また、今年度の評価についても全職員に自己評価票を配り、記入させたものを主任がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への取り組みが遅れ、2ヶ月に1回の取り組みを始めたものの、調査日までに2回しか行われていない。参加メンバーについては充実しており、会議録の整備も行われている。	○	今後はさらに充実した会議が、継続して行われることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と行事や運営についての情報交換をこまめに行っている。市からも月に1度、職員がグループホームを訪ねてくる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度の請求書の送付とともに、利用者の健康状態や暮らしの様子を手紙で知らせている。また、家族や親類の面会が多く、その際に情報を提供している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情の申し入れ先と担当者を明記しているが、家族からちょっとした意見や希望を言ってもらった際には単に業務日誌に書き込むだけにとどまっている。	○	家族からの意見や希望は、ケアの振り返りのための重要な指摘として受け入れてほしい。その意味で、相談、苦情ノートなどを作成し、原因の考察や今後の対応、家族への返事などをきちんと記録して、以降のケアに生かすことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えて利用者との馴染みの関係を断たないようにしている。新しい職員が入る場合には以前からの職員と一緒にケアを行って、引継ぎ期間を設けるなど関係性を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの位置する場所から、研修会などに参加する機会にも恵まれないが、段階に応じた研修には大分市まで業務として行かせている。また、グループホーム内で、職員会議の際に時間を取り30分ほどの研修を行っており、その記録もとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会のグループホーム部会に参加し、他施設の見学や情報交換を行っている。また、一般の職員もできる限り同行してサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人と家族に施設の見学を勧め、納得したうえで入居してもらい、利用当初は出来る限り家族にも訪問をお願いするなど、早く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の先輩であるという認識を職員が持ち、季節の行事や生活上の慣わし、郷土料理などを教えてもらうような場面作りを心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。生活歴を知り、そこからのアプローチができるように個人の記録に新たにフェイスシートを追加した。まだ十分な記述はなされていないが、今後追加記述していく予定である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族とは面会時の関わりの中で介護計画について意見を聞き、職員会議でカンファレンスを行って、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月の定期的な見直しのほか、変化があった場合には随時見直しして、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望をなるべく受け入れるようにし、通院や送迎などの支援をしている。また、家族の許可をえて自宅へ連れて行くなどの、本人の満足を考えた柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃は提携医の往診で健康状態をチェックしているが、急病などでは家族、本人が希望する医療機関への受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のことを早くから家族と話し合い、家族の希望を聞いている。グループホームとしては、現在はターミナルの受け入れの方針はないが、今までのところ、グループホームでのターミナルを望んだ家族はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねる言葉かけや対応をしないよう心がけ、気付いた時には職員同士でお互いに注意し合っている。また、勉強会を行い職員にプライバシーへの理解が深まるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調やその日の気分を考慮して、食事時間や入浴の検討、個別の散歩などに柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食ともグループホーム内で調理している。主に調理を専門にする職員の手により、温かいおいしい食事が供されている。また、下ごしらえなど、利用者にはできることは手伝ってもらいながら、食べることに向けて楽しい雰囲気が出るような配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日のほか、本人の希望や必要に応じて入浴することができる。ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう、本人のペースに合わせて職員側が急がせることのないよう、言葉かけに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、貼り絵、塗り絵、生け花などのレクリエーションに力を入れ、作品を展示して利用者の自信につなげている。また、調理の手伝いなど、できることを手伝ってもらい、感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩のほか、草取りに帰りたいという利用者につき添って散歩や草取りをしている。また、花見、ホタル、彼岸花、紅葉など、折々にドライブに出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけないケアに取り組み、ホール担当者を決めて出て行こうとする利用者の見守りを行っている。出て行く場合にはホール担当者が付き添う。人の出入りがわかるよう、入り口にはベルを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の立会いで利用者も一緒に避難訓練を行う。また、2ヶ月に1回、グループホーム内での避難訓練もある。山国町内に指定された広域災害時の避難場所(守実コミュニティーセンターと社会福祉センター)があり、地域の協力を得て実施している。2～3日分の食糧の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が栄養バランスを考えて立案するが、利用者の好みを取り入れて変更したり、体調に合わせて調理方法を変えることもある。水分量のチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい、広いホールは温度や採光に配慮して、利用者が快適に過ごせるようにしている。また、思い思いに過ごせるように、和室もあり、テーブルやソファなども十分な数があって、居心地のよい場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小間物、家族の写真などを居室に置いて、自分の部屋として落ち着いて過ごせるように工夫している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 直心会 望箭荘 グループホーム山国
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	中津市 山国町 守実57-1
記入者名 (管理者)	足立 君江
記入日	平成 20 年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの基本理念に加え、本法人のモットーであるスピーディなサービス提供とニーズ充足に力を置き、開設当初より利用者の意向を尊重し、地域との関わりを大切にしている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時及び、月ごとには職員会議にて理念を確認し、日々の支援にあたっている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の方々及び利用者・ご家族に見やすい出入り口に理念を掲示している。また面会やホーム見学の際分かりやすく説明するように心がけている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物・外出などを行い、地域の方々との交流を図っている。また地域の方々より野菜などの差し入れがあるなど交流に成果があがっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の七夕行事では七夕飾りの出品を行っている。また、お接待や祭りなどに参加したりと地域との交流に努めている。	○	小学校での行事(発表会)の招待があったが、寒い時期で利用者の体調のこともあり参加を控えた。次回は早めに情報を収集し、交流の機会を逃さないように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じ地域の方々に認知症の理解を深めてもらえるように取り組んでいる。	○	地域の方々に認知症に対しての理解を深めてもらえるよう交流会や勉強会なども今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を重ねてきたことで、評価の指摘事項を真摯に受け止め、職員が意義を理解し外部評価の結果を真摯に受け止め改善に向けて取り組み質の向上に努めている	○	今後も評価結果を真摯に受け止め、サービスの質の向上のため職員一同で改善に努力していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や運営に関する報告の他に意見交換の時間を設け、意見を元に話し合い、よりよいサービスの提供に努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支援センターとの情報交換を行っている	○	色々と情報交換し利用者が地域の中でさらに生活しやすいようにしていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターとの連携を図っているところである。また勉強会・研修会に参加し理解を深めていきたい	○	成年後見人制度について職場研修の企画を考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターとの連携を図り地域での虐待防止を図っている。また法人全体で虐待防止に向けて取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に理解納得していただけるように説明を心がけている。利用者の状態変化時には、家族と相談し方針を検討している。		
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動・態度などからその思いを察する努力をし、職員間での報告や申し送りなどで利用者主体の運営に努めている		
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会・電話にて近況報告を行っている。また面会時了解を得た上で家族との写真撮影を行っている。金銭管理については、面会時に定期的に確認印を貰っている。		
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的相談窓口については重要説明書に明記し、事業所においては玄関に苦情・意見箱を設置している。投書があった場合は、原因の考察とともに今後の対応などを検討している。		
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ミーティングなどで意見を出す機会を設け、良い案は取り入れている。		
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に合わせた支援が出来るように、ローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて職員の勤務の調整を行っている。		
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り異動を行わず職員を固定化することにより、顔なじみの職員によるケアに努めている。新しい職員が入る場合、利用者にも自己紹介を行い、以前よりいる職員がフォローをしながら関係作りを行っている。	○	管理者などの交代に関しては、早めに報告し十分な引継ぎ期間を設けての対応が重要であると考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。また資格取得に向けて、個々人も取り組みもあり勤務上の配慮をおこなっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の社会福祉法人の情報交換会に参加し、他施設の見学や課題別の取り組みなどの情報交換を行っている。職場内にてその情報を共有をしサービスの質の向上に努めている。	○ 二ヶ月に一回開催されているが、事業所の関係で参加できていない時があった。今後はより参加し、質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループ全体・あるいは各事業所において、管理者等がスーパーバイザーとなり職員の悩みや職務上の相談に応じている。また各種慰労会を設けて職員間の親睦を深めている。これらにより日常的に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けての勉強会や研修会への参加などの配慮を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた場合は、本人・家族の話を傾聴するように努めている。また、担当ケアマネージャーにより情報を得て、様々な問題に対応できるように努め、納得されたいうえで利用していただけるように取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や面談時に現状やサービス利用状況などを伺い、家族の意向を理解し、介護相談や助言などを行うように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他の機関等のサービスの紹 介などを含めた対応するように努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	利用前になるべく本人・家族に施設を見学してもらい、ホー ムの雰囲気や日常の様子を把握して納得してもらえるよう にしている。利用後は、家族と連絡を取り合い情報交換し利用 者の支援に努め、また様子を見て面会に来てもらえるよう にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者が人生の先輩であるという認識を職員が共有し、利 用者に教えていただくというストレングス視点の援助を行って いる。季節の行事や習わし、また得意な料理の方法を教えて いただいたり、特技や趣味が発揮できる機会がつけられるよう な工夫や声掛けを心がけて努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	面会・電話連絡などで、利用者の様子を伝え状況を理解し ていただき、またご本人・ご家族の思いを受け止められるよう に、相談などにも気軽に応じるように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	面会時に日ごろの様子を伝えたり、行事の時の写真を見て いただいたり、居室に案内しお茶・お菓子などを出してゆっく りとお話していただくようにしている。	○	当施設からのおたよりの再開や、利用者の絵手紙などでの 家族との交流もはじめていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	住み慣れた場所や知人との関係が継続できるように支援し ている。(地域の美容院でのカット・毛染め支援)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	個別に話しを聞く機会を設けたり、皆でカラオケや、ソファ ーやこたつでの談話など、それぞれの場で利用者同士の関係 がうまくいくようにいっしょに心掛け、見守りなど支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移動された方にも、情報を提供したりし、継続的な支援になるようにしている。また、職員の面会の機会づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け把握に努めている。介護計画時、家族・本人と希望・意向を確認している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族の意向や、担当ケアマネージャーより情報を得るようにしている。入居後も定期的に本人やご家族に聴き把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者個々人の生活リズムを理解するとともに、特技や趣味を発揮できる場面などを提供し、その状態に合わせた声掛け・見守り・支援を心掛け、個々の状態を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には面会時の関わりの中で、思いや意見を聴き反映させている。アセスメント・カンファレンス・職員会議にて検討している。	○	定期的な面会計画をし、家族との面談を多くし、その人らしいプラン作りに努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3~6ヶ月)な見直しを行うようにしたいが、変化に伴う見直しは随時行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録をとり、その時々に関心する人の支援に向けてのよい情報を取り入れ日々の支援に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に参加している。(運営推進委員会に民生委員参加)防災訓練においては年一回消防局の方に参加していただき避難訓練・消化訓練・通報訓練の助言や指導を得ている。災害時には地域との協力を得ている。防災訓練は二ヶ月に1回実施。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域への美容院への支援外出・買い物外出などご利用者の意向や必要に応じてしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括サブ支援センターとの情報を得ている地域包括支援センターと、協働しながら、よりよい支援につなげたい。	○	地域包括支援センター情報交換・また必要に応じて情報を得るようにする。(成年後後見制度などについて)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族またはご本人が希望する医療機関への受診を出来るように支援を行っている。受診時間や必要な時は、往診などで対応可能な協力医を確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の専門医などの受診支援を行っている。対応・方法の指示に従っている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>定期的を受診しているご利用者の状況を把握している看護師の助言を得たりしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族と医師と話し合い、早期退院に向けて調整している</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご本人・家族・医師と話し合い検討し、方針を立てている</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人・家族・医師・職員の中で納得のいく終末期を迎えることが出来るように連携をとり、取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り、納得のいく終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人と家族と管理者、ケアマネージャーが十分話し合い、退院先のケアマネージャーと十分に情報交換と話し合いを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の個々に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心掛け、気付いたときは職員同士お互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。	○ 排泄の失敗やトイレ誘導時に他のご利用者に配慮したり、さりげない声掛けをし、傷つけたりプライバシーを損ねたりしないように心掛けている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活全般においてご利用者個々の方々の意思表示を大切にしたケアに心掛けている。意思表示が困難な分については、傾きによる返答や表情を読み取るようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、体調やその日その時の本人の気持ちを尊重し、食事の時間・入浴の検討・変更、個別散歩など柔軟に対応している。	○ 機能訓練やレクリエーションなどについても、その日のご利用者の希望にそって実施するなど、柔軟に対応している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時や行事・母の日・敬老会などには一緒に洋服を選んだり、お化粧品などおしゃれを楽しめるように支援している。昔からの美容院でのカット・毛染め支援もお話しながら楽しんでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食ともグループホームで調理している。インゲンのスジとり、もやしの根とり・里芋の皮むき・大根おろしなど一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー牛乳・手作りココアミルク・紅茶など、ご利用者より希望のものを準備したり、ホットケーキ・果物のコンポート・石垣もち・蒸しパン・蒸かし芋などの手作りおやつが喜ばれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、ご利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、できるだけトイレにて排泄していただくように支援している。また時間を見計らって誘導の声掛けを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週三回の入浴を原則とし、本人の希望や必要に応じて入浴の回数を増やしている。また体調や気分により、時間や入浴日を変更するなどの柔軟な対応を心掛けている。入浴をゆったりと楽しんでいただけるように本人のペースに合わせた援助を行っている。	○	入浴を拒否するご利用者には、時間をおいて声掛けを試みることや関わる職員を代えて入浴につなげるなどの工夫をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の利用者の生活パターンを観察して、本人の意向を尊重した支援を行っている。例) 朝昼食後のベッドでの休養・運動・レク・余暇活動などを行うことにより安眠の支援に取り組んでいる。	○	十分な休憩が取れるように支援しているが、日中の休養時間が長くなり過ぎて昼夜逆転しないように注意しながら支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活暦を把握して得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように配慮をする。グループホーム内でお願いできそうな仕事をお願いし、その後必ず感謝の気持ちをご本人に伝えるようにしている。	○	書道・貼り絵・塗り絵・生け花など館内に展示し、発表する場を設けてご利用者の生活の自信に繋げている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の能力に応じて、買い物外出時に職員が付き添いでお支払いの見守り介助を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望のある人・草取りに帰りたいという利用者に散歩・草取り・近くの地藏様までの散歩などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りなど家族と一緒に出かけられたり、温泉に家族と行かれたりする機会をつくるように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や用事があるとき、電話をしたり絵手紙などで家族などへの交流を試みているが実施できていない。	○	家族にご利用者の個々の手紙・電話・絵手紙での交流を行いたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人など気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りを心掛けている。お茶やお菓子を出しゆっくりとお話ができる空間作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームへの入り口にはベルを設置し、施錠しないケアに取り組んでいる。ホール担当者を決め、見守りにつとめている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録しながらさりげなく全員の状況を把握に努めている。夜間は毎時巡視を行い、起きられたらすぐ対応できるよう職員の居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・消毒液などの保管は、危険防止のため定位置に置き、施錠している。薬などはワーカー室に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から、予測される危険を検討し事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。ヒヤリ・ハットを記録し、職員間で情報を共有認識をはかっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立案し、グループホームで三食とも調理するのでご利用者の好みの調理方法に変更したり、体調に合わせて調理方法を検討している。水分は起床時・食間・希望されるとき・入浴時に補給している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を利用者・職員ともに受けている。手洗いうがい・口腔ケア・排泄後の手洗い指先消毒の徹底に努め、手すり・居室・トイレ・フロアなどの消毒や掃除に取り組んでいる。	○	インフルエンザやノロウイルスなどの感染予防のために面会者にも玄関に手指消毒・マスクなどを用意しており、着用をお願いしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板は、魚・肉用と野菜用に区別している。生卵などの扱いにも消毒の実施を十分注意をしている。冷蔵庫のチェック・整理・消毒等に努めている。	○	台所の専用のスリッパを置くようにした。包丁・まな板などの区別を徹底した。生魚・肉・卵などのあとの調理器具は別に洗うことに努めた。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植物などを植えて、利用者や家族・近隣の方々が親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファを置きテレビ鑑賞をできるように、和室には冬場はこたつなどおいている、またホールにはひあたりのいいところに畳を敷いており日向ぼっこを楽しめるように配慮している。CDをかけたり、利用者による貼り絵を飾ったりくつろげる雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方々はこたつで談話をされたり、ソファでテレビ鑑賞をしたり、またホールに敷いてある畳で日向ぼっこをされたりと、好みの場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや馴染みのある私物や家族写真などを居室に置き、やすらぎの場所づくりに心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調はご利用者の体調管理とあわせ、その都度調整し換気は必要に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室など手すりを設置や段差をなくし、安全や自立に配慮している。外出時、玄関に椅子を置き、腰掛けて靴などの交換をするようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を分かりやすいように貼紙をしたり、居室に目印をつけるなどしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	春・夏には花を植えたり、洗濯干しや、また干し柿・切り干し大根を作るなどの活動をし、楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな環境の中で、ご利用者の方々が楽しく穏やかに心地よい生活がおくれるように努めています。そのため、個々のご利用者の人権を尊重し、心に寄り添う声掛けをし、個々のペースに合わせた柔軟な支援を心掛けています。安心と安全な生活を提供するため、地域の医療機関との連携により、体調不良などに対する適切な対応を行っています。